

私たち大人ができることは？

子どもたちの読書を支えるためには、様々な人々の連携・協力が不可欠です。



家庭では？

子供と一緒に本を読む



読書を通じて
感じたこと
考えたことを話す



読みきかせ



図書館に
行く！

地域(図書館等)では？

電子書籍
読書の
きっかけづくり
情報収集の支援
点字
多様な子ども
たちの読書
機会の確保

学校等では？

学校図書館
本たくさん！自由に読める！
図書便り
作るー！
図書委員！！
幼稚園など

民間団体では？

絵本専門士、
認定絵本士などの活躍の場
ボランティア活動

*「令和4年度子供の読書活動推進に関する有識者会議 論点まとめ」(文部科学省、令和4年12月) 参照

多様な体験を土台とした子どもの成長に向けて

将来、社会を生き抜く資質・能力を身につけた大人になるためには、子どもの頃から様々な活動に挑戦し、多様な経験を積み重ねていくことが必要です。そのためには、周りにいる大人が、子どもの生活環境のなかに意図的、計画的に多様な体験の場や機会を作っていくことが大切になります。子どもの成長を支える20の体験のなかから、今回は「読書」をテーマに、環境整備を考えました。今日から始められることを、子どもたちと楽しみながらやってみましょう。



「子どもの成長を支える20の体験」
リーフレットはこちら➡



読書好きを 育てる ヒント

子どもの成長を
支えるために
大人ができる
ことは？



読書活動により養われる子どもたちのチカラ



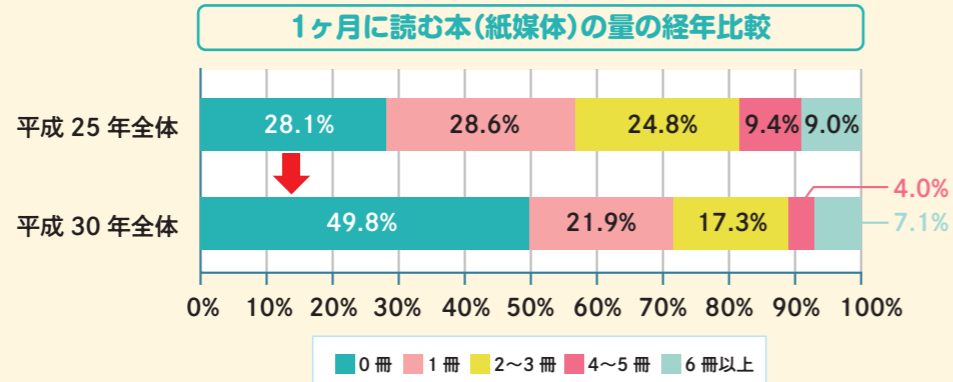
進む読書離れ

*「令和4年度子供の読書活動推進に関する有識者会議 論点まとめ」(文部科学省、令和4年12月) 参照

国立青少年教育振興機構が平成30年に行った調査から、読書活動のいまが見えてきました。

1 読書量の実態

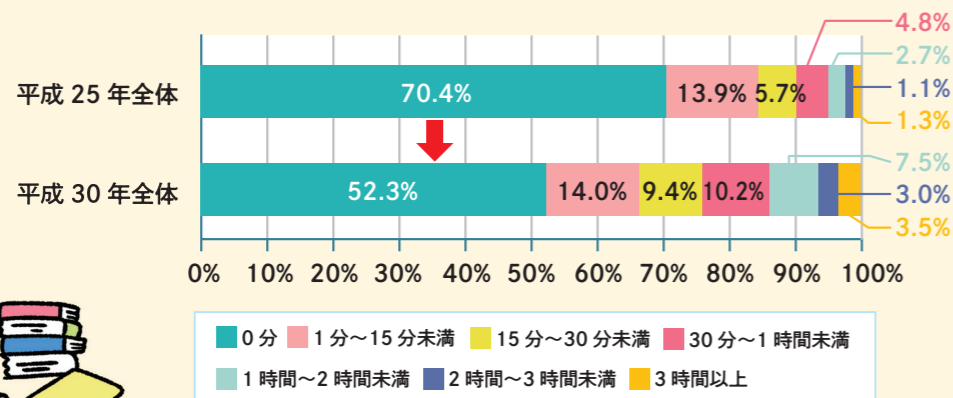
- ▶子どもに限らず全ての年代の人の読書離れが進んでいます。
- ▶特に、1ヶ月に読む本の量が0冊と回答した人の割合は、年代に関係なく大きく増加していて、平成30年の調査では**全体の約半数が全く本(紙媒体)を読んでいない**と答えていました。



2 スマホ等で読む人は増加

- ▶紙媒体の読書が減る一方で、**電子媒体の読書は増えています。**

携帯電話、スマートフォン、タブレットを利用した1日あたりの読書時間の経年比較



調査結果の詳細はこちら↓



*「子どもの頃の読書活動の効果に関する調査研究」(国立青少年教育振興機構、令和3年3月)より

「読書好き」を育てるヒント

同じく平成30年の調査では、小学校・中学校・高校を通じた読書量の多さに繋がる経験が示されました。

7つのヒント

- 1 本を持ち歩く
- 2 地域の図書館で本を借りる
- 3 同じ本を繰り返し読む
- 4 ジャンル問わず読む
- 5 本文以外の部分も読む
目次 前書き 解説
- 6 図書委員、子ども図書、読書コンシェルジュの活動
- 7 絵本を読む

又吉さんの経験からのヒント

お笑い芸人として活躍する一方で、読書家としても知られる又吉さん。ご自身の読書との関わり方についてのお話の中に、「**読書好き**」を育てるヒントを見つけました。

1. 小学生の頃の読書：興味から始まる図書

Q. 小さい時から、どのように読書に親しんでこられたのですか？

又吉さん：小学生の時、教科書に面白い話があったので、授業の進む速度と関係なく先まで読んでいました。そこで興味が出てからは、学校の図書室や地域の図書館に行って借りて読んでいました。

2. 思春期の頃の読書：本を自然に手に取り持ち運ぶ読書

Q. 今は動画やSNSがあり、10代くらいになると、もっと面白いことも出てきて本を読まなくなる時期が来ることもあると思いますが、そのような時期の読書については、どう考えますか？

又吉さん：強制ではなく自分から本を手にとって開いてみようと思う瞬間が、一番いい状態で本と出会っているのだと思います。僕の場合、通学時間を活用して読んでいるときが読む速度を自分で選べたので、特に楽しい時間でした。

3. 多様な本と出会う読書

Q. コロナ禍での読書活動の変化について、教えてください。

又吉さん：昔から書店に行くのが大好きで、これを買おうという目的を持っていくけれど、目的の本の棚に辿り着くまでに、目に入った本であるとか、予定になかった本と出会うのがすごく楽しいです。コロナ禍でここ数年書店に行く機会が少なくなり、周りの人から新しい楽しみ方を勧めてもらったりしながら楽しんでいます。

4. 紙の本全部を楽しむ読書

Q. 又吉さんは、読書をする際、紙派ですか？

又吉さん：紙の本が好きです。読書が好きなのは、装丁とか、そのデザインとか、文字の組み方と内容が、どのようにデザインされているのかということも含めて、本そのものも好きだからです。装丁のデザイナーさんなど、1冊の本を作るためにいろんな人が関わっているということも含めて、読書を楽しんでいます。

又吉 直樹 氏(吉本興業)

1980年大阪府寝屋川市生まれ。吉本興業所属のお笑いコンビ「ピース」として活動中。2015年に本格的な小説デビュー作『火花』で第153回芥川賞を受賞。同作は累計発行部数300万部以上のベストセラー。2017年には初の恋愛小説となる『劇場』を発表。最新刊に10年ぶりのエッセイ集『月と散文』、他の著書に『人間』『東京百景』『第2図書係補佐』などがある。YouTubeチャンネル【渦】、オフィシャルコミュニティ【月と散文】も話題となっている。



*上記は、令和4年4月23日に実施された「子ども読書の日記念『子どもの読書活動推進フォーラム』」内のシンポジウム「子ども時代の読書活動の重要性」にパネリストとして登壇された又吉直樹さんの発言から抜粋したものです。